

# 全国で活躍する

## 「地域おこし協力隊」

### ◎地域おこし協力隊導入の効果

協力隊員の熱意や行動力は、諦めかけていた住民の心を奮い立たせ、住民同士あるいは住民と行政とのつながりを強くしたり、今までは考えられなかった外部とのネットワークを作り出したりして、地域おこしの可能性を拓いてくれています。

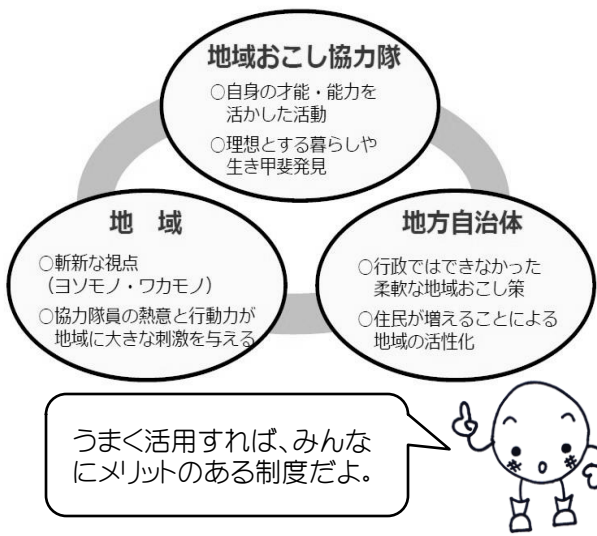
また、協力隊員自身も、地域住民との関わりやさまざまな体験によつて大きく成長し、地域から必要とされる充実感などが多く見られます。

「地域おこし協力隊」の制度をつまぐ活用できれば、地域にも地方自治体にも、そして協力隊員自身にも大きなメリットとなることでしょう。

ちなみに、協力隊員の約8割が20歳代と30歳代で、任期終了後、約6割が活動先の地域に定住を希望するとの見込みです。

### 地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方自治体の「三方よし」の取組～



### ◎総務省の支援

協力隊員を受け入れる地方自治体に対して、以下の経費について総務省からの財政支援が受けられます。

① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費：隊員1人あたり40万円上限(報償費等20万円、その他の経費20万円)

② 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費：1団体あたり20万円上限

また、平成26年度から、協力隊最終年次または任期終了翌年に起業する場合に要する経費として、1人あたり100万円上限に支援が受けられるようになりました。

### ◎地域おこし協力隊成功の秘訣

地域おこし成功のためには、協力隊員本人の努力はもちろん必要なことですが、見知らぬ土地にやってくる来意欲あふれる隊員を活かすには、受け入れ側の自治体と住民の努力や協力が、その成否を大きく左右します。

#### ・「何をしたいのか」をはっきりさせる

協力隊員を活かすためには、まず隊員を募集する段階で、地方自治体がその地域のどのような課題を解決しようと考えているのか、協力隊員に何を求めているのかをはっきりさせておくことが重要です。

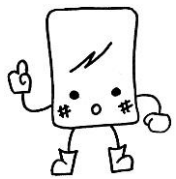
ここがはっきりしておかないと、せっかく応募して来てくれた協力隊員の個性と、地域の課題解決に必要な人材とのミスマッチが起きてしまいます。

#### ・「コミュニケーション」をつかさどる

次に、受け入れる自治体の職員が隊員としっかりとコミュニケーションをとって、意思疎通できるかが大切です。協力隊員の

話を聞く、町の人と交流しやすくしてあげる、首長とも話す機会を設ける、隊員の情報発信をどんどん応援してあげる。個性豊かな隊員の特徴を活かせるよう、「うまくサポートしてあげる必要があります。」

つまり、「自治体の受け入れ体制がしっかりできているかどうか」が成功の秘訣のようです。



### ◎地域おこし協力隊の活動事例

地域おこし協力隊が活動している身近な事例として、田布施町馬島でがんばっている2人の協力隊員の活動を紹介します。

田布施町では、人口減少や高齢化が進み、地域や島の担い手不足が深刻な問題となっている馬島(人口30人)の島おこしのため、平成25年度から、島で生活を共にし、将来の担い手となる人材として地域おこし協力隊員を募集しました。

協力隊員となった2人の活動内容は、

- ・ インターネットを使って馬島の紹介や自分たちの活動などの情報を発信
- ・ 馬島の観光マップを制作
- ・ 馬島の美化活動
- ・ 馬島の特産品として豆茶の栽培と商品化
- ・ さまざまなイベントの開催
- ・ 町外のイベントに参加して馬島や田布施町をPR
- ・ ラジオに出演
- ・ 地域の行事への参加
- ・ 家庭菜園作り

などなど、この2年間、本当に精力的に活動されています。

そして、2人は昨年の秋に、馬島で60年ぶりとなる結婚式を挙げられたそうです。

以下のブログやWebサイトはすべて協力隊員の2人が運営しているものです。ぜひご覧ください。

◇ 田布施町地域おこし協力隊のブログ

<http://ameblo.jp/tabuse-chikiokoshi/>

◇ 田布施町地域おこし協力隊 Twitter

<https://twitter.com/umashiman>

◇ UMASHIMA web (馬島を紹介するサイト)

<http://umashima.web.fc2.com/>

◇ UMASHIMA shop (馬島のネットショップ)

<http://umashima.theshop.jp/>

### ◎「緑のふるさと協力隊」の紹介

地域おこし協力隊に似た取り組みで、NPO法人地球緑化センターが運営する「緑のふるさと協力隊」があります。(歴史はこちらの方が長く、平成6年から実施。)

「緑のふるさと協力隊」は、自分の将来への可能性を見つけようとする若者たちが農山漁村を舞台に、1年間、地域に密着したさまざまな活動に取り組むプログラムです。協力隊員と受け入れ自治体、そして地球緑化センターが連携して、地域貢献活動に取り組んでおり、毎年約50名の学生や社会人が全国の農山漁村で活動しています。

※上関町でも、ぜひ「地域おこし協力隊」や「緑のふるさと協力隊」といった制度を活用してみたいかがでしょうか。

《参考になるWebサイト》

◇ 地域おこし協力隊

<http://www.i-ju-join.jp/chikiokoshi/>

◇ 緑のふるさと協力隊

<http://www.n-gec.org/activities/furusato.html>

◎ 「わいわいタイムス」4月号は4月5日(日)発行予定です。